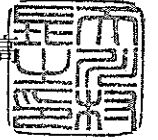




天産地第428号
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 殿

天川村長 車谷重高



中期的な計画の作成にあたっての意見について

平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のあった、標記の件について別紙のとおり意見書を提出します。

担 当	
産 業 建 設 課	
阪 岡 悌	
TEL	0747-63-0321
FAX	0747-63-0329
内線	130
E-mail	sakaoka-y@vill.tenkawa.lg.jp

道路整備の中期的な計画作成にあたっての
意見書

奈良県天川村

道路整備中期計画意見書（天川村）

天川村は、紀伊半島の脊梁をなす山岳地帯に位置し、村内には近畿最高峰である八経ヶ岳をはじめとして標高1,300mから1,900mに近い大峯山脈が連なっており、吉野熊野国立公園に指定された豊かな原生の森と清らかな流れの数々の滝や溪谷により、神秘性を秘めた自然環境を保っております。

また、修験道の創世以来この大峯の地は、修験者の祈りの地であることから、平成16年に修行の道である「大峯奥駈道」霊場「吉野・大峯」が紀伊山地の霊場と参詣道として世界遺産に登録されました。

このように、恵まれた自然環境や文化的景観等豊富な地域資源を有していることから、年間70万人の交流人口があり、「京奈和自動車道」・「南阪奈道路」・「国道168号の高規格化」等の整備の進捗により、新たなアクセスルートが形成されつつあります。

本村の基幹道路は、「国道309号」・「主要地方道大峯山公園線」・「主要地方道高野天川線」の三路線であります。随時整備が進められておりますが、未改良の狭隘区間及び危険箇所はまだ多く、住民の生活道路としてはもとより、観光客等が通行に不安を覚える状況にあります。

本村は、地方分権にふさわしい「天川村」として生き残りを賭けて、自立／自律のむらづくり施策の展開を図っているところでありますが、その施策の成否如何は、基幹道路の改良整備の進捗が大きな鍵を握っているといえます。

天川村の歴史文化等地域資源を活用し、質の高い観光地として諸施策を展開する事で、交流人口の確保を行い併せて観光産業及び観光周辺産業振興を促進させることが最重要と考えられますが、最近の国道168号や169号の道路崩落事故等が大きくマスコミ報道されるにつき、吉野の山間部全域が通行止め、或いは通行が非常に危険だという風評が流れ観光客が減少し、少なからず村経済に影響を及ぼしています。

また、昨今地域ブランドとしての「天川」が評価を受けつつあり、

企業の誘致やその推進を図るための基盤として道路整備は必須の条件であります。

過疎化・高齢化の進む中で、通勤・通学・高次医療へのアクセス等生活道路として地域のニーズに対応し限界集落をつくらないためにも、道路整備は不可欠なものです。

道路は、体の動脈と同じく非常に重要なものです。一旦、通行止になると地域は支障をきたし、教育や介護、医療や福祉もたちまち機能不全に陥ります。そういった意味で、未整備の生活道路がまだまだ多数存在している事は、生存権保障義務にも影響の及ぶ問題と考えられます。道路特定財源による道路整備は必要であり税率を下げない方向での堅持が必要であります。

しかし、国道・県道の整備費は、国庫補助金や交付金と受益者である地方が負担する形となっています。地方の財源としては起債等を充当するのが現状であり、地方負担分が捻出できない場合は道路整備に取り掛かることが出来ない状況となります。道路整備の国庫負担率の引上げと併せ、地方負担分としての道路特定財源の充当を頂きたいと思えます。

国道・県道はもとより村道を含む道路整備費及び道路維持費の地方負担を軽減するため、国の道路特定財源を地方道路特定財源として充当できる、たとえば「道路維持交付金」や「特定道路整備譲与税」等の創設をお願いします。

国道309号

国道309号につきましては、「天川村」・「上北山村」・「下北山村」三村が連携し「日本風景街道（シーニックバイウェイ）」としての広域的な整備を検討しているところです。また、一般国道169号の迂回路として重要ではあるが、去る19年1月の国道169号上北山村の崩落事故において、迂回路としての利用を検討したが十分な安全性が確保できない状況でありました。

国道168号・169号・425号・主要地方道高野天川線による紀伊半島の道路ネットワークの整備を推進することにより、防災・観光・産業等、地域間交流が促進され広域的な地域活性化を図ることが可能となります。当該国道は、昭和45年に国道昇格となり、三村をつなぐ重要な路線として着々と整備が進められておりますが、本村中越地区より行者還トンネルまでの区間につきましては、狭隘区間及び危険箇所が多く早期の整備が必要な状況であります。

主要地方道大峯山公園線

大峯山公園線につきましては、洞川温泉への唯一の幹線道路であり、観光客の増加に伴い行楽シーズンは、慢性的な渋滞が発生しております。現在中越から蛇トンネル間の改良工事を進めて頂いており徐々に停滞が減少しつつありますが早急に事業費を確保し、早期の整備が必要となっております。

また、洞川温泉街の入口から大峯山寺登山口（清浄大橋）までの区間も早期整備の促進も合わせて必要となっております。その中でも特に、旅館街を経て「ごろごろ水」周辺から母公堂までが幅員3.5m程度しかなく慢性的な停滞が発生しており、地域住民が交通整理を行って対応しているものの、観光地としては、危機的な状況にあり早期の整備が必要となっております。

今後、洞川までの道路整備が進むにことにより洞川温泉街の停滞を回避するためのバイパス道路計画が重要となっております。

主要地方道高野天川線

高野天川線につきましては、和歌山県高野町から奈良県野迫川村、五條市（旧大塔村）、を経て天川村に至る生活・観光ルートであり、古くより高野山と大峯山の二大霊場を結ぶ「高野・大峯街道、すずかけの道」として多くの参詣者に利用されてきました。

平成16年世界遺産に登録され、この二大霊場が日本人のこころのふるさととしてより一層の注目を集めることになり、和歌山・奈良の観光と文化の拠点を連絡する主要ルートとして、ますます重要度が高まっております。

当路線の整備は、両県において推進して頂いておりますが未改良等の箇所があり、本村の西部地区は危険箇所が多く、特に広瀬地区から塩谷地区は例年のように崩落等があり頻繁に通行止めが行われている状況です。

通行止めになると、地域の生活は一変し通勤・通学はもとより高齢者の医療機関への通院や往診ができない状況となり、真の生命線としての機能を保つためにも、狭隘区間及び危険箇所の早期の整備が必要な現状です。

上記、天川村の道路現状におきましては、整備の立ち遅れが目立ち、この道路整備如何が村が自立し、村が生き残るための生命線であるといえます。

また、近隣市町村と連携し次の協議会において道路整備のための道路特定財源の堅持を関係機関へ要望しているところです。

国道309号整備促進三村協議会

(天川村・上北山村・下北山村)

主要地方道高野天川線整備促進協議会

(和歌山県高野町・奈良県天川村・五條市・野迫川村)

県道49号線整備促進協議会

(天川村・五條市)

道路整備及び道路維持をより確実に推進するには、道路特定財源を堅持していただき、地方負担の軽減を図ることが必要であることを主要な意見とします。

平成19年5月8日

奈良県天川村長 車 谷 重 高